

狂言 野村万作の世界



第一部(狂言レクチャー)
狂言の魅力

第二部(狂言)
木六駄きろくだ

'96 **9月22日(日)** 開場13:30
開演14:00

黒部市国際文化センター**コラーレ** (能舞台 300席)

全席自由 一般 3,000円(当日3,300円)
高校生以下 1,000円(当日1,200円)

■プレイガイド■

コラーレ、黒部メルシー、ロイヤルバリー黒部、魚津サンブラザ
入善コスモ21、朝日アスカ、インフォマート(市民プラザ、CIC)

第一部

狂言レクチャー

狂言の魅力 —お話と実演による狂言の魅力—

構成 野村万作

出演 野村萬齋 石田幸雄 小川七作 高野和憲 野村良作

第二部

狂言

木六駄 きろくだ

主 高野和憲

太郎冠者 野村万作 茶屋 野村萬齋

後見 小川七作

伯父 石田幸雄

野村良作



ある冬の日、主人は木六駄（六頭の牛に積んだ薪）と炭六駄と酒樽を都の伯父に届けよと、太郎冠者に命ずる。太郎冠者は大雪の中を、12頭の牛を追いながら出かける。途中、峠の茶屋で一杯飲んで暖まろうと酒を所望するが、あいにく茶屋では酒が品切れである。つい一口と、進物用の酒樽に手をつけ、茶屋の亭主とくみかわすうちに飲みほしてしまう。太郎冠者は機嫌よく舞を舞ったりしたあげく、酔った勢いで木六駄を茶屋にやっしまい、炭六駄をのせた六頭の牛だけを引いて出立する。伯父の家につき、主人からの文面に相違して薪の荷がないことを問いただされると、太郎冠者は、最近自分は「木六駄」と改名したので「木六駄に炭六駄のほせ申し候じゃ」と言いぬけるが、結局、嘘が発覚して追い込まれる。

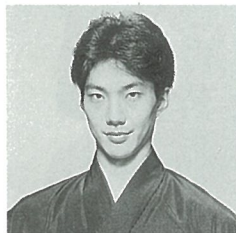
蓑笠をつけ、一本の追竹を持つだけで雪の坂道と12頭の牛を描き出す牛追いの演技、酔態で舞う《鶉舞》の小舞など見どころに富み、狂言としては重厚な構成の中に庶民の生活感情も描かれた秀作。



野村万作

'31年生。祖父先代萬齋、父先代万蔵に師事。重要無形文化財総合指定者。海外で「野村狂言団」「万作の会」として公演し、その団長として交流に努めた。

古典のほか、新しい試みにもしばしば取り組み、日本芸術院賞、芸術祭大賞、紀伊国屋演劇賞ほか多くの受賞歴がある狂言界の第一人者。日仏演劇協会副会長。平成7年紫綬褒章受賞。



野村萬齋

'66年生。万作の長男。祖父及び父に師事。東京芸術大学音楽部邦楽科卒業。古典の大曲「釣狐」を演じ、狂言界の若手として活躍する一方で、「ハムレット」「テンペスト」に主演、出演し、黒沢明監督の映画「乱」やテレビドラマに出演するなど、汎演劇活動にも意欲的である。東京大学、お茶の水大学の非常勤講師を勤めた。



石田幸雄

'49年生。野村万作に師事。30年の舞台歴をもつ野村家の貴重な演者として、すでに数多くのすぐれた舞台歴をもち、狂言界の中堅として活躍している。また、新しい作品についての試みにも意欲的な発表が多い。海外公演の経験も豊富である。長男（淡朗）もすでに初舞台を踏み、子役として活躍している。



小川七作

'49年生。野村万作に師事。古典のほか、英語狂言グループを作り、その指導発展に尽力している。ロンドン、アメリカ、中国、旧ソビエト、オーストラリア、ニュージーランド、香港など「野村狂言団」及び「万作の会」の海外公演に不可欠の貴重な演者である。

この公演は、財団法人地域創造並びにジャンボ宝くじの売上金から助成を受けて実施するものです。

主催 財団法人黒部市国際文化センターTEL0765(57)1201

協賛 富山エフエム放送

後援 黒部市・黒部市教育委員会

(雨天の場合も決行しますが、会場内で傘の御使用は) できませんので、雨合羽等を御用意ください。

